



# 学校だより

# 第1号

神奈川県立伊勢原養護学校  
平成 29 年 4 月 17 日発行



## 新年度のスタート

校長 内野 智之

4月当初の花冷えにより桜の開花が遅れ、入学式には5分咲き程度の今年の春の訪れでしたが、平成29年度が始まりました。

今年度は 小学部 4名 中学部 5名  
施設訪問教育七沢学園中学部 2名  
高等部 35名 伊志田分教室 15名 の新入生と、  
小学部5年 施設訪問教育七沢学園小学部4年への 転入生2名を新たに迎え、  
総勢198名の児童・生徒でスタートすることになりました。



昨年度4月のスタートが207名でしたので、それに比べると若干少なくなっており、教員の数も学級数減により減り、年々学校規模が縮小されてきています。そのような中ですが、本校、伊志田分教室、施設訪問教育七沢学園が一体となり新年度の運営を進めていきたいと思ひます。

さて、年度当初ということで、学校では現在さまざまな計画が立てられているところです。まずは今年1年の学校目標を策定し、それを受けて各業務班の年間計画や教員一人ひとりの目標が立てられます。また授業や学級での年間計画があり、児童・生徒一人ひとりの個別教育計画を保護者の皆様と話し合って作成することになります。学校組織としてそれらが有機的に結びつき運営がなされていけるかどうか年度末の評価の上で大きな違いになってきます。教育成果として目標が達成できるよう、必要な見直しや修正も含めて進めていきたいと思ひています。

次期学習指導要領で求められている「主体的・対話的で深い学び」が話題に上っていますが、今後特別支援学校でも様々な形で実効性のある取り組みが求められてくることと思ひられます。しかし、このことはすでに自立と社会参加をめざして実践している、**対人関係を広げ、自己選択・自己決定する機会をたくさん経験する中、自己肯定感や意欲を高め、自主性を育んでいく学び**に言い換えられると考えられます。また、昨年4月に施行された障害者差別解消法も2年目を迎え「合理的配慮」についてより具体が求められてきます。このことの意味を学校全体で共有し、授業改善の取り組みを進めてまいります。是非保護者の皆さまも、やさしく子供の背中を押し、一歩前に進めるよう支えていただくことを願ひします。

本校の強みは何かということを考えます。教員が連携して行う柔軟性のある課題対応力、高い就労率に見る高等部の進路指導実績などを挙げるすることができます。このストロングポイントをさらに高めていきたいと思ひます。

最後になりましたが、服部前校長の後を受け継ぐこととなりました。児童・生徒一人ひとりが輝き、充実した学校生活を送ることのできるよう教職員一丸となって進めてまいります。今年度もどうぞよろしく願ひいたします。

